

森づくりの最前線

利根沼田森林管理署 水上森林事務所 首席森林官 志田 悟



一ノ倉沢

私が勤務している水上森林事務所は、群馬県の北部に位置し、みなかみ町にかかる国有林の約10,600畝を管理しています。国有林の中には、群馬・新潟の県境に位置する谷川連峰の主峰で、雄大な景観を誇る日本を代表する山の一つである谷川岳があります。特に、一ノ倉沢の岩壁は、日本三大岩場の一つで、ロッククライミングの地としても有名です。高さこそわずか1,977㍎にすぎませんが、日本のアルプス3,000㍎級の山にも匹敵する美しさと厳しさ、貴重な自然を有しており、地元みなかみ町は、昨年、当地域を対象とする「エコツーリズム推進構想」をとりまとめ、自然と調和した観光利用を目指した取組を開始しています。



天神平スキー場

また、郷土の上毛カルタで「水上・谷川スキーと登山」と言われているように管内には幾つかのスキー場が「野外スポーツ地域」として管理されています。中でも天神平スキー場は積雪量、雪質等にも恵まれ11月下旬から5月上旬までスキー場として利用され、夏季から秋季には登山、自然探勝等の利用客でにぎわいます。

こうした自然豊かな観光地域として、貴重な役割を果たす国有林において、平成22年8月24日に県内初となるカシノナガキクイムシ被害によるナラ枯れが8本発見されました。同被害はすでに西日本及び日本海側を中心に広がっており、近隣では新潟県・長野県・福島県・山梨県・静岡県で生息や被害が確認されています。ナラ枯れは、カシノナガキクイムシが材内に病原菌を運ぶことで木を枯らす伝染病の一種です。ナラ枯れの蔓延を防ぐには、早期に被害の把握を的確に行い、発生初期段階で防除を行うことが最も重要です。

当署でも平成23年には被害の拡大防止に向けた本格的な取組を開始しました。被害木の伐倒・薬剤くん蒸処理に加え、カシノナガキクイムシが侵入する前に殺菌剤の樹幹注入を行ったり、フェロモン剤を使ったおとり木法など試行錯誤しながら取り組んでおり、県・自治体と連携した現地検討会、被害対策の研修会なども開催し、今後、これ以上被害が拡大しないよう常に森林の状態を把握し、早期の対策に努めていく中で、豊かで美しい森づくりに取り組むことが我々の使命であり責任です。



カシノナガキクイムシ(5mm前後)



殺菌剤の樹幹注入後のおとり木